

第79回アブダクション研究会開催のご案内

アブダクション研究会

世話人 福永征夫
TEL & FAX 0774-65-5382
E-mail : jrdf117@ybb.ne.jp

事務局 岩下幸功
TEL&FAX 042-356-3810
E-mail : yiwashita@syncreate.jp

第79回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 第78回アブダクション研究会のご報告をします

11・5・28に開催致しました前回の第78回アブダクション研究会は、伏見 親子 氏（愛国学園大学人間文化学部）に『「百と八つの流れ星」(丸山健二)にみる文学とアブダクション』というテーマでご発表をいただき、明快かつ適切な枠組みの下に、解りやすく、クリアカットなご説明をいただきました。

本会・懇親会ともに中味の濃い大変によい会合になり、実り豊かな研鑽をさせていただきました。伏見先生とご出席の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

丸山健二が日経新聞のエッセイの中で、「百と八つの流れ星」の自らの創造体験について、極めて情熱的で印象的な表現をしています。

「・・・言語を唯一の頼みとする立場に身を置いているにもかかわらず、さながら音響芸術に携わっているかのごとき至高の気分ひたれるようにもなった。・・・次々に紡ぎだされる文章のひとつひとつが妙なる楽の音を奏で、流れ星のごとき一瞬の光芒をきらめかせ、そのひと筋ひと筋がひとりてで書き手自身を新たな領域へといざない、高峰へと導いてくれる日々は、まさに夢のようだった。」

この創造のプロセスを解き明かすポイントは、伏見先生が説明された、作品を通して見られる、章・部・巻の再帰的（リカーシヴ）な入れ子の構造にあるのかも知れません。

作家は、自らが紡ぎ出す、言語の表現の再帰的な構造のシークエンスに心身を沈潜するうちに、音楽の楽曲の再帰的なイメージにも通じるような、一種の共通感覚を経験するに至ったのではないかと考えることが出来るのかも知れません。

1. 生と死 2. 形而上と形而下 3. 知・情・意 4. 言語性・絵画性・音楽性 の四つの観点から、各章ごとに、作品の表現と意味するもの、について、その変遷のダイナミズムを分析して見れば、音楽の楽曲の再帰的な構造に、極めて類似したパターンを示す傾向を発見出来るかも知れません。

私たちは、これを切っ掛けにして、引き続き、丸山健二の作品からの学びを繰り返して参りたいと存じています。伏見親子先生とご出席の皆様にご重ねて感謝を申し上げます。

なお、伏見親子先生には、『「百と八つの流れ星」(丸山健二)にみる文学とアブダクション』という題目で、まとめの論稿を、取りまとめをいただくようお願いを致しております。それが出来上がり次第、本案内状を差し替える形で、皆様にお届けしますので、何卒大いにご期待ください。

(2) 各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします

既存の領域的な知識をベースにして、新たな領域的な知識を探索し、それらを広域的な知識に組み換えて、より高次の領域的な知識を仮説形式的に創造することを目標に、アブダクション研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします。

(3) アブダクション研究会は、知識の広域化と高次化を目指し進化を続けて参ります

1996年に設立されたアブダクション研究会は、地球規模の難題に真正面から対処するために、知識の広域化と高次化を目指し、いつまでも、真摯に、勇気を持って、粘り強く、積極的に、可能性を追求し、多様な探究を積み重ねて、一步一步進化を続けて参ります。

(4) 発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に積極的にお申し出下さい

皆様には、今後に、ぜひとも発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に積極的にお申し出をいただきたく、お願いを申し上げます。お申し出は、通年的にいつでも、お受け入れを致します。上記の方向に沿うものなら、いかなる領域に属するいかなるテーマであっても、将来の可能性として、誠意を持って相談をさせていただき、実現に向けて調整を果たす所存であります。

記

◇ 日 時： 2011年7月30日(土) 13:00~17:00(例会)
17:15~19:15(懇親会)

◇ 場 所： 日本電気企業年金会館 1階会議室 (中山氏のお名前で申し込み)

東京都 世田谷区 代沢5丁目33-12 電話：03-3413-0111(代)

* 当日の連絡先(岩下幸功・携帯電話) 070-5541-4742

* 小田急線/京王・井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分

* 会場の地図は、グループメールのブリーフケース内「下北沢 NEC 厚生年金基金会館MAP」に記載。 <http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/files/>

◇ テーマ：

『エドワード・サピアの言語学とアブダクション』(仮題)

花 村 嘉 英 氏

(中国・集美大学)

◆ 文 献 ◆

エドワード・サピア著＝安藤訳『言語』（98・岩波文庫）

◇プログラム：

- | | | |
|---------------|----------------------|-------------|
| (1) 諸連絡： | | 13:00～13:10 |
| (2) 研究発表： | [PART-I] | 13:10～14:25 |
| | <小休止> | 14:25～14:30 |
| | [PART-II] | 14:30～15:45 |
| | <小休止> | 15:45～15:50 |
| (3) 総合的な質疑応答： | | 15:50～16:50 |
| (4) 諸連絡： | | 16:50～17:00 |
| (5) 懇親会： | <皆様の積極的なご参加を期待しています> | 17:15～19:15 |

第79回 アブダクション研究会（7/30）の出欠連絡

●7/25（月）までの返信にご協力下さい。ご連絡なしの当日出席も無論可ですが、会場や資料の準備の都合もありますので、できるだけ、ご協力くださるようお願いいたします。

FAX： 042-356-3810

E-mail： abduction-owner@yahoogroups.jp

岩下 幸功 行

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| ●7/30（土）の研究会に、未定ですが調整します。 | ●懇親会に、未定ですが調整します。 |
| 出席 | 出席 |
| 欠席 | 欠席 |

ご署名

☆ 出欠の連絡は、グループメールメニューの「投票」コーナーから行うこともできます。

- * 次々回 2011 年9月度の第 80 回アブダクション研究会は、2011 年9月24日（土）にNEC企業年金会館・1階会議室で、開催します。
- * 9月度の研究会は、深井 寛修 氏（立命館大学情報理工学部）に『脳波研究の歴史とそのセマンティックスを概観する』（仮題）のテーマで、ご発表をいただきます。
- * 参考文献は、早めにお知らせするようにします。
- * 大いにご期待をいただき、奮ってご参加ください。

＜定例アンケート調査＞

もしご協力がいただければ、という趣旨であり、必須ではありません。
皆様のメッセージ集として他の会員にも伝達しますので、情報の交流に積極的に参画下さい。

- (1) 今、アブダクションの研究・実践と関連のある事項で特に興味をもって取り組んでおられること。
- (2) 研究会の議論の場を通して INTERSECTIONAL なアイデアや知見の INCUBATION が進んでおり、例会で発表したいと思っておられること。
- (3) これまで（第1回～第78回）の研究発表やなされた議論（「議事録」を参照下さい）に関して、さらに改めて質疑や意見を表明したいと考えておられること
- (4) アブダクションの観点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (5) 細分化された「知」の再構築を図るという視点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (6) 貴方ご自身がお考えになられている「知」の定義とは？
- (7) その他のご意見、ご要望、連絡事項など。
特に他学会・研究会での発表内容や発表論文等についても是非お知らせ下さい。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....